

令和7年度コミュニティ・スクール推進研修（小・中）②実施報告

実施日：令和7（2025）年10月21日（火）

本研修では、教職員と地域住民が学校運営に協力・参画することで、教育に対する課題や目標を共有し、一体となって児童・生徒を育む学校づくりを推進するために必要な知識や技術の習得を図ります。第2回は、33名の方が御参加くださいました。

○ 説明・演習「熟議の意義と協働へのつなぎ方～熟議体験を通して～」

総合教育センター職員

説明「熟議とは？」

始めに、熟議の意義と進め方について説明がありました。熟議とは、学校運営協議会において課題・目標・ビジョンを共有する際に活用される手法の一つであり、熟議を行うことで、参加者の当事者意識が高まり、相互理解や信頼関係の構築につながることを示されました。さらに、受講者が学校運営協議会で熟議の手法を活用できるよう、実際の熟議の様子を撮影した映像を用いてイメージをもってもらいました。特に、熟議を進める上でのポイントとして、「ねらい・テーマやゴールの共有が大切であること」



「グループで意見を出し合い、考えを一つに絞っていくプロセスが熟議の核心であること」「熟議を『協働』につなげていく視点が必要であること」などが示されました。受講者は、後半の熟議体験に向けて、説明や映像から得られるポイントをメモしながら理解を深めていました。

演習「熟議体験」

教職員、地域の方、行政職員など、立場の異なる受講者によるグループが編成され、熟議の前提としてモデル地域の設定を行いました。そのうえで、「子どもたちの地域への愛着を育むには」というテーマと「現状と課題を洗い出し、『ふるさと大好き』な子どもを育てるために、学校と地域が協力してできることを考える」というゴールが示されました。

自己紹介タイムでは、名前・学校名・役職等に加え、「地域“あるある”共感ゲーム」を取り入れることで、受講者がリラックスして交流できる雰囲気をつくりました。熟議前半では、付箋を活用しながら各地域の現状や課題を可視化・共有しました。それを踏まえて熟議後半では、よりよい取組や課題解決のための具体的な方策について意見を出し合いました。その際、「自分の立場でできること」を意識するよう促すことで、受講者一人ひとりが当事者意識を持って議論に主体的に関わる姿勢ができました。

話し合いの成果は、ワールドカフェ形式で全体に共有されました。各グループの発表を通じて、他の視点やアイデアに触れることができ、受講者にとって多角的な学びの機会となりました。



研修の最後に、説明と演習を通して得られた気付きや学びについて振り返りを行いました。特に、「参加者が当事者意識をもって学校運営協議会に参加するにはどうすればよいか」「熟議で出た意見や考えを、どのように協働へとつなげていくか」といった視点を意識して振り返ることで、参加者の構成や熟議の進め方、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の重要性などに気付くことができたようです。

この体験を通じて得られた学びを今後の実践に生かすことで、参加者の当事者意識がさらに高まり、より実りある話し合いが展開されることが期待されます。

★ 受講者の声 ★

- ・熟議のポイント、進め方について改めて理解を深めることができました。熟議体験では、皆さんの意見を聞いて考え方が変わったり、視野が広がったりして貴重な体験でした。
- ・様々な意見をどうやって実行していくかを考えた時に、地域の担い手、人材の発掘が重要だと思います。学校運営協議会の熟議だけで終わらず、地域学校協働活動につなげていく仕組み作りや、実行するための担い手をどう発掘していくかが課題だと感じました。
- ・前回の研修会でもありましたが、「学校」と「地域」が両輪として取り組むことが大切であることを改めて感じました。特に、今回の研修では、具体的に組みそうアイデアを学ぶことができました。本校で来年度から本格的実施するコミュニティ・スクールが少しでも充実したものになるよう、本校の実情に即した取組を模索していきたいと思います。
- ・熟議のテーマとゴールを示すことで、目的を見失わずに話し合うことができること、一人一人が意見を出し合うことで、当事者意識がもてることなど、実感することができました。学校としてのビジョンをはっきりもつこと、何を話し合い、それがどうつながっていくのか、職員が分かっていることなど、大切なことがいくつもあると感じました。
- ・来年度から本校においても学校運営協議会を開始します。今年度はその準備を進めているところですが、何をどうしたらよいか分からないことだらけ（霧の中）でした。しかし、本研修を通して、熟議を通してさまざまな立場の人たちが意見を出し合うことで「学校・地域でともに協力（協働）しながら〇〇なことができる、〇〇なことがやれそうだ」という共通の目標を掲げ、取り組んでいく方向を共有していく、と自分としては捉えることができました。次年度の開始までに、「どのようなメンバー構成をするのか（人選）」、そして開催した際の「熟議するメンバー（班構成）」、この2点が重要なポイントになるのではないか、と思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL: 028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp